

富士地区に  
光化学スモッグが発生



「光化学スモッグは風の無い  
どんよりした日に多く発生」

富士地域（富士・富士宮・芝川・富士川、蒲原、由比）に8月8日はじめて光化学スモッグが発生し、静岡県ではオキシダント注意報を発令しました。その後9日、13日、20日と続いて高濃度が出現しましたが、さいわい大きな被害はありませんでした

光化学スモッグについては、すでにお知らせしましたが、発生原因としては、工場や自動車などから排出される窒素酸化物や炭化水素などの有毒ガスが、太陽の紫外線によって化学反応を起こしてできるものです。特に夏の日差しの強い日中で、風の無いどんよりした日に多く発

生します。

現在富士地区の測定は、県で富士市、富士宮市、蒲原町の3カ所で常時測定、市の青空号で移動測定を行なっています。

光化学スモッグ注意報の発令は、県の常時測定局で、オキシダント濃度が0.15PPM以上になると、県知事が濃度に応じて注意報、警報、重大緊急警報を発令します。そこで、注意報などが発令されると、被害を最少限に食い止めるため、発令区分によって各工場に対し燃料の使用量を減らす措置を要請します

4回にわたる発生では、富士宮の測定局で高濃度が出現して

いますが、最高0.156PPMで注意報にとどまっています。これまで大きな被害はでていませんが、ひどい場合は植物の葉が落ちたり、目が刺激されチカチカしたりします。特に過激な運動中の小中学生が被害を受けやすいとされています。

光化学スモッグが発生するとテレビやラジオ、市の広報無線放送で注意を呼びかけています発生したときには、屋外の過激な運動などはなるべく避け、目やのどに刺激を感じたときはすぐに洗眼、うがいをするなど、みなさんも十分注意をしてください。



2日間にわたり岳排の総点検と清掃を

## 岳南排水路を総点検

### 田子の浦水域の水質汚染も調査

富士地区の製紙工場のほとんどがお盆休みになった8月15日と16日に、岳南排水路管理組合では、排水路の総点検と清掃を行ないました。

岳南排水路は、富士、富士宮市内の製紙工場などから出る汚水を田子の浦港へ排出しています。総延長は35kmにもおよび、1日の排出量は約170万トンにのぼっています。しかし、工場が休みになった2日間は1年ぶりに排出もピタリと止まりました。この間に管路内の損傷や水もれがないか調べ、積った製紙カス、土砂などを取り

のぞきました。

また、岳南排水路の総点検とあわせて市公害課と県公害防止センターでは、8月15日、田子の浦港水域の水質調査を行ないました。これまで、各工場が操業している時のデータは十分にそろっていますが、休業時のデータがないので、比較資料にするための調査でした。

調査は市公害課が、田子の浦港に流れ込んでいる沼川、潤井川、岳排など7カ所で、臭気、浮遊物質、CODなど9項目にわたって行ないました。また、県公害防止センターは、田子の浦港の出口付近を中心に7カ所で、港外へ拡散する汚染水質調査を行ないました。